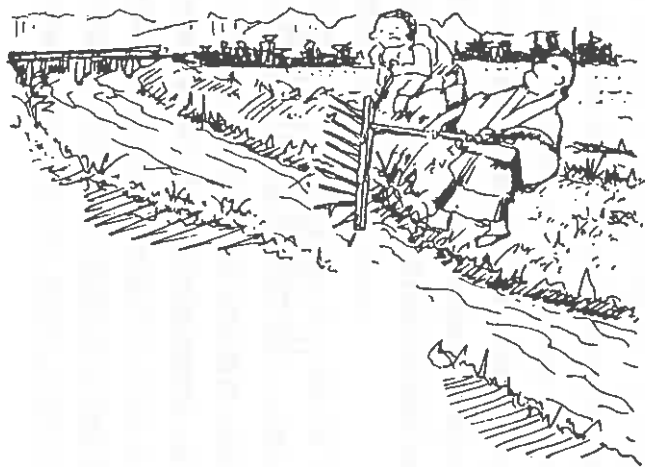


# かつばの恩がえし

昭和六十一年四月五日号



吉原三丁目の唯称寺には、三代目の住職がかつばを助けたときにもらった茶つぼがあります。

今回は、その茶つぼにまつわるお話です。

## かつばを助けた和尚さん

昔、唯称寺が中吉原宿（依田橋の西）にあったころのことでした。

ある晩、和尚さんの枕もとに一人の白いひげのおじいさんが現れました。

おじいさんは「私は和田川の川下の三股に住んでいるかつばです。先日の洪水で河台橋の近くにある私のすみかに馬鍬（農具の一種）

が引つかかり、子供たちが出入りできません。どうぞ馬鐮を取ってください」と言つて帰りました。

翌朝、和尚さんは小僧を連れて河合橋まで行つてみました。すると、かつばの言つた通り、和田川の土手の下の方に馬鐮が引つかかっています。

和尚さんは、「これだな」と思いながら、小僧と二人で苦労して取り除きました。

その晩、夢の中にかつばが現れて、「和尚さんありがとうございました。これは私が川底で拾つた茶つばです。ほんのお礼のしるしです。そして、これから唯称寺が火難や水難にあわないようにしましょう」と言いました。朝になつて和尚さんが玄関に出てみると、茶つばと魚が置いてありました。このあと、

唯称寺は一度も火事にあつたことがないそうです。

## 火事に遭わないよ

唯称寺には、茶つばと馬鐮が今も伝わっています。住職の沢崎白雅さんは、「カップの恩がえしかどうか知らないが、何度かあつた吉原の大火をのがれています。」と語ってくれました。

※茶つばと馬鐮は一般公開していません。



唯称寺に伝わる茶つば